

クリーンセンター Q&A 4万人を超えた見学者 関心はごみピットとクレーン

新しいクリーンセンターは、平成29年の運転開始以来たくさんの方々が見学に訪れているようです。その状況をクリーンセンターに聞いてみました。

Q新しいクリーンセンターは運転が始まってから、どのくらいの方が見学されていますか？

A 運転開始から2年間で、4万人を超える方が見学されています。

Q子どもたちはどうですか？

A 市内の小学4年生の社会科見学だけでも、毎年約1000人の子どもたちが見学に来ています。

Q見学された方の一番の関心は何ですか？

A ごみを入れるピットと大きなクレーンですね。

Q見学者からどんな質問が出ますか？

A 見学者の主な質問

▶クレーンの重さは？

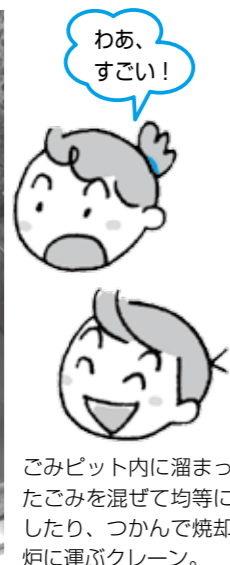
→ 20.7トンの重さがあります。

▶クレーンが持ち上げることができるごみの重さはどのくらい？

→ 1.6トンの重さを持ち上げることができます。

▶つかんだごみを、またピットに落としているのはなぜ？

→ごみピット内のごみの質が均等になるようにかきまぜているのです。 次号につづく



ごみピット内に溜まったごみを混ぜて均等にしたり、つかんで焼却炉に運ぶクレーン。

編集後記 元号が改まり「令和」となりました。新クリーンセンター稼働後、計6回の発煙・発火事故を経験して、「不燃ごみの分別の徹底と可燃ごみのさらなる減量の徹底を」と願わずにはおられません。長らく本紙の編集をしてきた緑町パークタウン自治会の木村さんが運営協議会委員を退任されました。今後は「運営協議会だより」の編集での奮闘を期待しています。(狩野耕一郎)

施設と地域の安全を守る運営協議会

運営協議会会長 島森和子

新施設稼働から3年目を迎えます。運営協議会はクリーンセンター建設以来、地域住民と環境の安全を守る施設の監視役として35年に渡り活動してきました。

新施設は新規に設立された(株)むさしのEサービスが運営を行い、最新設備の導入がされ、また環境啓発施設エコプラザ(仮称)の計画など、旧施設からいろいろと変化しています。運営協議会としても時代の変化に対応していく必要があると考えています。地域住民の安全と環境を守るという基本方針を守りながら、市役所、むさしのEサービス、エコプラザと協力して新しいクリーンセンターが市民に愛されるように活動していきたいと思えます。

2019年度 運営協議会委員			
会 長	島森 和子	(北町五丁目町会)	
副 会 長	根岸 泰広	(武蔵野緑町パークタウン自治会)	
会 計	千綿 澄子	(都営武蔵野緑町二丁目第2アパート自治会)	
	藻谷 征子	(緑町三丁目町会)	
会計監査	早川 峻	(北町五丁目町会)	
	高橋 豊	(北町五丁目町会)	
	興梠 信子	(武蔵野緑町パークタウン自治会)	
	狩野 耕一郎	(緑町三丁目町会)	
	齊藤 武子	(緑町三丁目町会)	
	荻野 芳明	(環境部参事・クリーンセンター所長)	

● 2018年度 運営協議会 決算 単位=円			
取 入		支 出	
市補助金	1,000,000	事務費	4,212
その他の収入	60,005	広報費	355,497
		事業費	693,885
		会議費	0
		備品費	0
		交際費	0
		予備費	0
計	1,060,005	計	1,053,594
		市への返却金	6,411

● 2019年度 運営協議会 予算 単位=円			
取 入		支 出	
市補助金	1,000,000	事務費	10,000
その他の収入	60,000	広報費	375,000
		事業費	625,000
		会議費	5,000
		備品費	40,000
		交際費	5,000
		予備費	0
計	1,060,000	計	1,060,000

編集・発行/武蔵野クリーンセンター運営協議会
〒180-0012 武蔵野市緑町3-1-5
武蔵野クリーンセンター内
電話：0422-54-1221
●武蔵野市ホームページ
<http://www.city.musashino.lg.jp/>

*この広報は、再生紙を使用しています。

武蔵野クリーンセンター
運営協議会
だより 73

武蔵野クリーンセンター運営協議会とは
1984年施設建設時に地域住民の安全と権利を守るために設置された周辺3地域4団体が参加するクリーンセンター運営の監視役。



CONTENTS

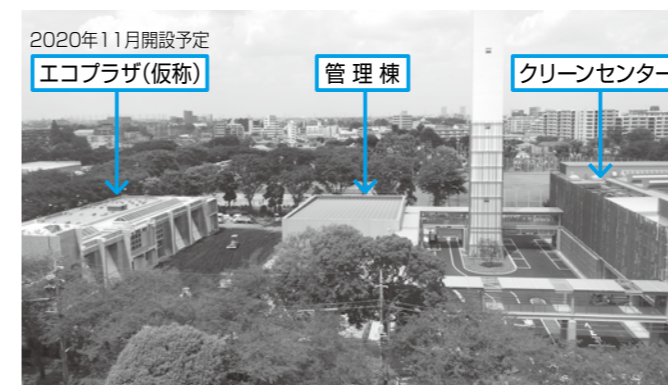
- P 1...エコプラザ(仮称)キックオフ講演会
- P 2...工事中NOW
- P 3...事故対策後も 毎日が事故の一手手前 今日出すごみは何ですか? 武蔵野市ごみアプリが便利!
- P 4...クリーンセンター Q&A 施設と地域の安全を守る運営協議会 2019年度運営協議会委員 他

エコプラザ(仮称)キックオフ講演会
人と人をつなぐエコプラザ(仮称)

6月29日(土)午後2時から、クリーンセンターの新しい管理棟2階見学者ホールにおいて、「人と人をつなぐエコプラザ(仮称)」をテーマにエコプラザ(仮称)キックオフ講演会が開催されました。完成したばかりの見学者ホールは、アートディレクターとして活躍している森本千絵さんの講演を期待して集まった、若い方から年配の方までさまざまな世代で埋まりました。



スクリーンの後ろに見えるのはエコプラザ(仮称)の建物



講師：森本千絵さん
株式会社 goen* 主催。コミュニケーション・アートディレクター。武蔵野美術大学客員教授。武蔵野美術大学卒業後、博報堂入社。
'06年史上最年少でADC (Tokyo Art Directors Club) 会員となる。'07年株式会社 goen* を設立。
NHK朝の連続テレビ小説「半分、青い」のポスターデザインをはじめ、ミュージシャンのアートワークや映画・舞台の美術、動物園や保育園の空間ディレクションを手がけるなど、活動は多岐に渡る。

旧クリーンセンターからエコプラザ(仮称)へ

エコプラザ(仮称)は、ごみをはじめ、資源、エネルギー、緑、水循環、生物多様性などさまざまな環境問題について啓発を行う施設で、2020年11月オープンを目指しています。

この施設は、旧クリーンセンター建設当初から安全な運営を監視してきた運営協議会や、新クリーンセンター建設に向けて話し合いを重ねてきた施設・周辺整備協議会が、旧クリーンセンターの建物を活用し、環境問題を市民みんなで学び・考える施設として提案したものであり、環境に関する人と人をつなぐネットワークの拠点として期待されています。

見学者ホールからは、エコプラザに生まれ変わつつある旧クリーンセンターの建物を目の前にのぞむことができ、管理棟横の大きな階段を下りたところには芝生広場が整備されます。



人と人をつなぐまちづくり みんなが参加してつくる場に

講演の中では、新潟県長岡市の総合施設「アオーレ長岡」^{注1}のロゴデザイン、「南三陸志津川さんさん商店街」^{注2}ののれんやサイン計画、「八戸の水飲み場」^{注3}のデザインなど、全国各地の仕事を通じて行われた人と人をつなぐ多彩で楽しいまちづくりの様子が、映像をふんだんに使って語られました。

東日本大震災後に宮城県で行われた「リボンアートフェスティバル」^{注4}で、子どもたちがワークショップでつくった作品と、人々の想いから「みんなが集まる場」としてオリジナルの盆踊りが実現したお話では、盆踊りと音楽が森本さんのスタッフの実演で紹介され、会場から手拍子が起こりました。

武蔵野市エコプラザの「企画書」として、森本さんからいくつもの提案がありました。

例えば…

- 空港のターミナルみたいにごみ生まれ変わるところ…ごみからアート・ごみの美術館

注1：アオーレ長岡

シティホールプラザ「アオーレ長岡」は、2012年長岡駅前の旧厚生会館の跡地に整備された、「アリーナ」、「ナカドマ(屋根付き広場)」、「市役所」が一体となった複合施設。あらゆる世代の多様で自発的な活動を実現する場として、みんなが憩い集う「市民交流の拠点」を目指している。(アオーレ長岡ホームページより)。

注2：南三陸志津川さんさん商店街

2012年復興を目指し地元の事業者により開設され、2017年南三陸町志津川地区に移行。賑わいの再生拠点となっている。森本さんは「にぎわいをつくるデザイン」を担当し、ロゴやサインなどランドデザインを手がけた。商店街の看板などに地元の海産物や、南三陸町にゆかりのあるモアイ像などが描かれている。

- 安らぎの庭・堆肥で育てた野菜を使って、おいしい野菜のレストラン
- 子どもたちがキャンプできる、夜の星が見える芝生広場
- ごみに興味をもって学べるごみの授業、ごみの図書館・ごみ分別の歌・地球の温暖化など未来の見える双眼鏡
- 人と人をつなぐフリーペーパー
- 1日中みんなが楽しめるごみフェス などなど…

ほかにもたくさんのアイデアで夢が広がるお話が続き、あっという間に時間が過ぎていきました。

エコプラザをみんなが参加しながらつくっていきそうな気がしてくる、「キックオフ」にふさわしい明るく楽しい講演会でした。

注3：八戸の水飲み場

青森県八戸市に2018年7月にできた市民のためのコミュニティスペース「八戸まちなか広場 マチニワ」。森本さんは、その中央の広場にある「世界一大きな水飲み場」としてシンボルオブジェ「水の樹」をプロデュース。青森県にゆかりのある歌手・坂本美雨さんの歌声とオブジェを流れる水の音が時間を知らせる。

注4：リボンアートフェスティバル

被災した宮城県の牡鹿・石巻地域で行われた、アート・音楽・食の総合芸術祭。国内外のアーティスト、ミュージシャン、シェフたちが訪れ、地元の人々とふれあひながら作品をつくったり、ここならではの食を提供したり、音楽イベントを行うなど、さまざまな「出会い」を生み出す場を目指している。

5月に管理棟、6月末に大階段が完成し、平成25年から始まった新工場棟を含む新クリーンセンター(仮称)整備運営事業の工事範囲が完成しました。新管理棟には、1階にごみ総合対策課とクリーンセンターの事務所が入り、2階に見学者ホールがあります。

現在、旧事務所棟を環境啓発施設エコプラザ(仮称)としてリニューアルするため、屋上防水工事が行われています。引き続き内装改修と外構の工事などが行われます。

工事中
NOW

2019.6
新管理棟の完成と
エコプラザ(仮称)
整備へ

管理棟

大階段

事故対策後も 毎日が事故の一步手前

—正しい分別に努めましょう—

新しいクリーンセンターで続いた事故

2017年4月から稼働開始した新しい武蔵野クリーンセンターは、同年11月～翌年6月まで不燃・粗大ごみ処理施設で発煙・発火事故が続きました(運営協議会だより第70号 2018年8月31日発行に掲載)。さらに本年2月14日には可燃ごみピット内で発火があり、消防車による消火活動が行われたことはまだ記憶に新しいところです。

不燃・粗大ごみ処理施設での発火は、市内から回収された燃やさないごみの袋の中に、危険有害物(リチウム電池、乾電池、スプレー缶、ライターなど)がまざれこんでおり、処理機による破砕工程で発熱・発火に至ったと考えられています。

ごみ総合対策課からも、これらの危険有害物の分別・除去の徹底を市民に繰り返し周知していますが、市の展開検査によれば、回収した不燃ごみ約70トンの中に、電池類など危険有害物が859kg混入と報告されています(市報 2018年8月1日号)。

クリーンセンターでは、事故を未然に防ぐためさまざまな対策を講じ、昨年7月までに設備の改修を終えました。



特に混入が多いといわれる、コードレスクリーナー(左)のバッテリーと充電式電気シェーバー(右)。コードレスの充電式の家電製品は、リチウムイオン電池が使われています。

毎日見つかる危険有害物の混入

クリーンセンターによれば、施設の消火設備により消火することのできる小規模な発火は、なんとほぼ毎日認められるとのこと。

設備の改修により増設された監視カメラやスプリンクラー、火災検知機が作動し、事故は未然に防いでいますが、原因である危険有害物の混入は完全に防げていません。

市内全域より回収され不燃・粗大ごみ処理施設へ搬入されてきたごみを、収集車から降ろしたあと、担当する職員の手で注意深く分別され、不燃ごみピットに投入されます。それでもまだ危険有害物が混ざっているのです。

何より、ごみを出す市民が危険有害物を不燃ごみに入れないようにすることです。そのために市民へ事故の危険を知らせ、分別の徹底を繰り返し伝えて、市民も正しい分別に努めることが大切です。

今日出すごみは何ですか? 武蔵野市ごみアプリが便利!

4月からごみ収集の頻度に変更になりました。これまで行政収集の区分は市内を8地区に分けられていましたが、地域ごとのまとまりで10地区に再編され、地区単位での世帯数の差の均衡が図られています。また、一部の収集品目について、曜日ごとに稼働車両台数のばらつきが大きかったことから、1日単位の業務量を平準化するよう見直されました。市は、これらの平準化により、収集業者の人員や設備の効率的な運用と中長期的なコスト抑制を図るとしています。

今日出すごみは何?

心配されたのは市民への周知でした。市内各地での説明会の開催、市報やごみニュースなど広報の活用、ごみ便利帳の刷新、「ごみと資源の収集カレンダー」の配布などで周知されましたが、気づかなかった市民も少なくなく、プラスチック製容器包装やペットボトルなどごみの分別、一部品目の隔週化した収集日に戸惑うこともありました。



武蔵野市ごみアプリが教えてくれます

今日出すごみは何か、お手持ちのスマートフォンで、ごみ収集日を簡単に確認できることをご存知でしょうか? 武蔵野市ごみアプリをインストールして、お住まいの地区を登録すると、その日の収集されるごみをスマートフォンで教えてくれて大変便利です。市のホームページ、またはQRコードにより、武蔵野市ごみアプリをダウンロードして利用しましょう(無料)。

スマートフォンをお持ちでない方は、配布された「ごみと資源の収集カレンダー」をご覧ください。